

# 映画本大賞 2013

ことばで映画を読む面白さは、  
時に映画以上の感動をもたらしてくれる。  
あの作品の、あの監督の、あの映画人を巡るものがたりに  
ドラマ以上のドラマとその余韻を感じるのだらう。  
今回で10周年を迎えた小塚恒例企画「映画本大賞」。  
今年も溢れるほどに書き記された、いくつものことばたちは  
我々に何を伝えてくれるのだろうか。



## 第10位

### 竜二漂流1983 この窓からあ、なんにも見えねえなあ

谷岡雅樹 / ELP=三栄書房 / 2600円+税

1983年、一本の自主制作映画が日本映画界を震撼させた。「竜二」は、金属疲労を起こしていたそれまでのヤクザ映画を過去の遺物にし、新たな層からも熱狂的な支持を受ける。突然現れた奇跡の作品を通じ、映画とあの時代の熱を活写し、幻の「吉田監督版」と完成版（川島透監督）との比較を通じて「竜二」の何が新しかったのかを浮かび上がらせると同時に、現在の映画・芸能界と市民社会を挑発する谷岡雅樹、渾身のアジテーションである。